ここから物語は、新しいCHAPTERへ。愛沢絢夏、主催イベントを通し，「ここが僕の生きる場所」と高らかに宣言！

何時からだろう、愛沢絢夏の誕生日に当たる10月25日
 に東京で単独公演を行なうようになったのは。今回は、吉祥寺SHUFFLEを舞台に、愛沢絢夏の主催イベント「NEO CHAPTER」の追加公演としてワンマン公演が行なわれた。
その前日となる10月24日(土) 、愛沢絢夏は渋谷DESEOを舞台に主催イベント「AIZAWA AYAKA birthday event～NEO CHAPTER returns～」を行なった。愛沢絢夏を筆頭に、MARKET SHOP STORE/爆弾幸気圧/FROZEN CAKE
BAR/キャンディホリックが出演。ここでは、主催イベントの模様をお伝えしたい。

爆弾幸気圧

イベントのトップを切ったのが、愛沢絢夏と同じDEAD
ANGELの仲間である爆弾幸気圧。「さぁ、一緒に遊んでいこうぜ」。ライブは気持ちのアクセルを次第に踏み込むように「ゼンカイ
bari×2」からスタート。スケールあふれる演奏の上でこの日限定で出演が決まった特殊団員のAyakaがどこかで観たようなステージングと歌声で、観客たちの気持ちのアクセルも踏ませてゆく。「アゲてゆこう」と煽るAyakaはこの日の爆弾幸気圧のステージと会場の空気をトップから１つの渦にのみ込み、歌が進むごと熱と圧を上げる演奏に触発され、フロアにいる人たちの気持ちも高ぶりだしていた。
さぁ、ここから一気に感情のアクセルをベタ踏みだ。タイトなビートに乗せ、爆裂した演奏をぶち噛ますメンバーたち。途中三三七拍子のリズム煽りも加えながら、祭りロックナンバー「3.3.7」を通し、爆弾幸気圧は観客たちを熱狂の世界へ連れ出した。華やかで激しい演奏やメンバーらのがなる声に煽られ、フロアの人たちも「ワッショイ」「乾杯」「爆幸」と、マスク越しに小声で必死に声を掛け合いながら両手を振り上げていた。
分厚い音が身体を直撃する。爆弾幸気圧は、オラオラ煽るように「p.d.f-爆-
」を演奏。「その手を掲げろ」の歌に合わせ、フロア中からたくさんの手が突き上がる。爆弾幸気圧の熱いライブに触発され、誰もが「オーオーオー」と心の声を上げながら身体を騒がせていた。
ザクザクとしたギターの音を合図に、荘厳な音が会場中を包み込む。爆弾幸気圧は、観客たちをけしかけるように「Ready5」をぶつけてきた。最高の世界へ一緒に行こうと誘うように、彼女たちは攻撃的な演奏を突きつけ、熱狂という最高の刺激を与えてゆく。その場で大きく飛び跳ね騒

ぐ観客たち。このまま気持ちを高ぶらせながら共に熱狂を作り上げようぜと誘いをかけるステージングを、爆弾幸気圧は描き出していた。
最後に突きつけたのが、「爆攻ハリケーン」だ。感情を熱く高ぶらすハードエッジな演奏を武器に、彼女たちは熱を求める観客たちを、もっともっと騒ぎ狂えと煽っていた。フロアから数多くの拳が突き上がる。「全部巻き込め」「全部呑み込め」の歌詞のように、トップバッターを飾った爆弾幸気圧は、この会場に理性を壊せというメッセージを示しながら、熱狂という様を描きだしていった。

FROZEN CAKE BAR

「DARK
HERO」が流れだしたとたん、メンバーが、フロア中の人たちが空高く跳ねだした。SSBMVがラップ声で煽れば、くりざべすが気持ちを騒がせる高音な歌声で刺激を与えてゆく。ミクスチャーなスタイルを持った音楽性を突きつけ、FROZEN CAKE BAR
はフロアに身体を大きく揺さぶる熱狂の風景を作りだす。激しく疾走する楽曲の上で、くりざべすの歌声が印象深く耳に残る。そこもFROZEN CAKE BARの持つ嬉しい魅力だ。
勢いを増幅するように、演奏は「DRUG
ON」へ。メンバーらに煽られ、フロア中からも数多くの拳が突き上がる。荒ぶるSSBMVのグロウル、くりざべすは耳にこびりつくメロディアスな歌を届け、激しい楽曲に華やかな色を与えてゆく。男女ヴォーカルのコントラストが、そのまま楽曲に際立つ彩りも与えていた。勢いは止まらない。FROZEN CAKE BARは「BATTLE OF
GUILD」を歌い奏で、爆裂した風景をフロアに描き出す。前のめりに観客たちをグロウルした声で挑発するSSBMV、対してくりざべすの華やかな歌声が心地好さを持って身体を嬉しく騒がせていった。身体を、感情を破壊する2STEPナンバー「Teansistor」が飛びだした。爆走する楽曲に乗せ2人のヴォーカリストが挑発し続ける。フロアでも、熱い煽りに触発され跳ね続ける人たちが続出。間奏では、ミドルヘヴィな表情も提示。何時しかフロアでは2TEPを踏んではしゃぐ人たちの姿も。爆裂した華やかな音の渦の中に心地好く呑み込まれ、そのままイキきってしまえ!!
「走るよ」の声を受けて流れたのが、「毒怪鳥」。拳を振り上げ歌うくりざべす。フロアの人たちは走れない変わりに、その場で飛び跳ね、爆発したい気持ちを舞台上にぶつけていた。轟音撒き散らし走り続ける楽曲が、心のアクセルをガンガン踏み込ませてゆく。2STEPを踏むヴォーカル陣に合わせ、フロアでも2STEPを踏む観客たち。SSBMVとくりざべすは、たがいに歌声をぶつけながら「雷音」の上で、煽るように歌を響かせていた。胸を熱く騒がせるくりざべすの歌に触発され、身体が熱を放ち続ける。
「最後まで熱を届けていこう」。FROZEN CAKE BARは和ミクスチャーナンバー「Fant-
BEAT」を突きつけた。挑発するような姿勢で言葉をぶち噛ますSSBMV。くりざべすの胸をくすぐるキャッチーな歌に触れ、心がはしゃぎだす。荒れ狂う演奏の中へ、彼女の歌声が華やかな色を挿してゆく。歌に心惹かれつつも、身体は熱を求め続けていたように、聴感と体感二つの視点からFROZEN CAKE BARは熱い刺激を届けてくれた。最後にFROZEN CAKE
BARは感情高揚ナンバー「パンデミック」を通し、会場中の人たちと一緒に歓喜した世界を描きながら、気持ちイキきった様をこの空間に作りあげていった。

キャンディホリック

「Reincarnation」の演奏を始めると同時に、メンバーたちが舞台上から身体を前のめりに観客たちを煽りだした。「拳！」と煽るヴォーカルのマリン。彼女たちも、最初から戦いを挑む姿勢で観客たちに刺激を与えてゆく。感情的な歌声をサポートするハードエッジな激しいサウンドが心地好い。

青ヰ奏のベースが唸りを上げる。勢いを倍加させるように「vAnpAiA」を突きつけ、キャンディホリックはフロアにスリリングかつハードエッジな空気を作り上げていった。唸りを上げて走る演奏の上で、感情的な歌声を響かせるマリン。身体は激しさに反応しながらも、気持ちは胸騒がせる歌声にずっと惹かれ続けていた。
輝きを放つように、開放感を抱かせる「Eyes on
Me」をキャンディホリックは披露。メンバーたちも歪みを上げた激しい音を突きつけながらも、アガる気持ちを抑えきれずに笑顔で演奏。楽しさを掻き集めるように進んでゆく楽曲に刺激を受け、わくわくした気持ちが膨らみ続けてゆく。そして…。メンバーらと一緒にジャンプをしながら始まったのが、気持ちを嬉しく騒がせる表情を満載した爆走ポップチューンの「空想シンデレラ」。サビではマリンが、観客たちも、タオルを大きく振りながら一緒にはしゃいでいた。タオルをくるくる回すたびに、気持ちも一緒に螺旋を描いてアガりだす。何時しか無邪気な笑顔になり、キャンディホリックの作り上げる甘い熱狂の虜になっていた。
勇壮な演奏が飛びだした。高揚した気持ちを増幅させるようにキャンディホリックは「Lonely
Rain」を演奏。込み上げる気持ちをぶつけるように力強く歌うマリン。彼女の高ぶる気持ちへ熱情を注ぐ演奏陣。高ぶるこの感覚が、気持ちを嬉しく騒がせる。キャンディホリックが最後に突きつけたのが、「CRY!!!」だ。爆裂したハード&ロックンロールな音を、2STEPを踏みながら作りあげる演奏陣。激しく情熱を燃やすように熱唱するマリン。メンバーらが、観客たちが、沸き立つ気持ちのまま、熱に浮かされたように感情をぶつけあう風景がそこには生まれていた。

MARKET SHOP STORE

トリッキーな、でも最初から気持ちを上げる演奏をぶつけ、MARKET SHOP
STOREは「ピグマリオンランド」を通してフロアに熱を生み出した。台の上に立ち、少しでも心の距離を縮め、互いの熱を、想いを感じあおうとヴォーカルのMAMEは歌をぶつける。フロアから熱い手拍子が鳴り響けば、無数の拳が突き上がる。MARKET SHOP
STOREも最初からこのフロアに、熱を分かち合う最高の場を作りあげていた。いや、彼女らの場合、ここは闘技場というべきか。
鋼のビートがしなやかに跳ねだした。ソリッドでスピーディ、エッジ鋭い跳ねた演奏が身体を熱く刺激する。「リーガル」に合わせ、フロア中からも昂る声が沸き上がる。クールな歌声で挑発しながらも、演奏が真っ赤に熱した鋼のようだからこそ騒がずにいれない。もっともっと身体を揺さぶってくれ。「もっともっとかかってこい!!」の煽りを増幅するように「Curse」が飛びだした。騒ぐ観客たちをさらに挑発するMAME。心の内側から沸き立つ想いを、スリリングな演奏に乗せてMARKET SHOP
STOREは突き刺す。1曲ごと熱を燃やすように歌い奏でる様に、胸が熱く昂り続けていた。
「ここにいるみんなで、熱い空間を作りましょう」。切っ先鋭いサバイバルナイフのようなゴツい演奏だ。でも、歌には胸を揺さぶる熱情した想いが詰め込まれている。MARKET SHOP
STOREは「イナフ」通し、心と身体を熱く沸きたてろと挑発してゆく。「愛沢絢夏に、ここにいるみんなの愛をいっぱい届けましょう」。MAMEの煽りに合わせ、フロアから熱い声と拳が突き上がる。互いに気持ちを剥きだしてこそ、そこには人の心を揺さぶる魂の歌が生まれる。勢いを加速し、熱を増幅するように、MARKET SHOP
STOREは「[sub]リミナル」を突きつけた。互いに感じあっていたのは興奮だけじゃない。心を裸にしたときに分かち合える熱狂だ。
「ここにいるみんなと、愛沢絢夏をお祝いできて最高でした。これからも一緒に音楽を楽しんでいこうね」。最後にMARKET SHOP
STOREは「花に例えたら」を演奏。重さを抱きながら疾走するロックな楽曲上で,エモーショナルな歌を届けるMAME。最初から最後まで熱を抱いたまま、掲げた拳を下ろすことのない光景を彼女たちは描きあげていった。

愛沢絢夏

熱い手拍子に導かれ舞台に姿を現したのが、この日の主役の愛沢絢夏。思い返せば、1年前は喉に出来たポリープを除去。約5ヶ月に及ぶ休みに入ることを伝えるために、同じく渋谷DESEOの舞台に立っていた。それから、もう1年を迎えようとは…。
ライブは、何時だって僕はここに立って歌い続けるんだという強い意志を示すように、「wake up」から始まりを告げた。フロアでは、彼女の歌声に共鳴するように無数の手がサインを形作っていた。小さな身体を揺さぶり、伸ばした指先を観客たちの心に指しながら、彼女はあえて爆発寸前の感情を持って、今、ここで歌う理由を、「wake up」を通し一人一人の心に伝えてゆく。間奏では、頭上高く掲げた愛沢絢夏の手に向けフロア中から数多くの拳が振り上げられていた。終盤には、「僕はここで歌ってるんだ」と力強く声を上げながら。みんなでここにいる意味を感じあっていた。
重く歪んだ音が唸りを上げて走りだす。愛沢絢夏は「HELLO」を通し、「来いよ!!」と雄々しく煽りだす。サビで生まれた「HELLO HELLO HELLO」の合唱。誰もがマスク越しの小声でとはいえ、沸き立つ感情を愛沢絢夏にぶつけていた。いや、そうしたい気持ちを抑えられなかった。愛沢絢夏も「HELLO HELLO HELLO」とマイクを強く握りしめ、声の限りに歌い叫んでいた。
「自分の曲というのは愛おしくていいよね。今日は、わたしにとって特別な日。今までちゃんと誕生日イベントをやったことがなくて、今日は盛大に祝ってもらおうと思っています。今日は甘えてもいいですか。もっと笑顔作れますか、さぁ狂っていこうぜ!!」。飛びだしたのが、愛沢絢夏のライブに熱狂一体化した光景を一瞬にして作りだす「Be Crazy」だ。フロア中の人たちが、身体を激しく揺さぶり、「For Crazy」と愛沢絢夏と一緒に叫びながら騒ぎだす。愛沢絢夏も雄々しい姿で挑発しながら、突き上がる拳の風景をフロア中に作りだしていた。誰もが頭をからっぽに、身体を熱く揺さぶる演奏に身を預け、その場で跳ね続ける。それ以外に何が必要だ、突き上げた拳を翼に変え、羽ばたき(跳ね)続ければ、それでいい!!
「さぁ、お前ら思いきりタオルまわしていくぞ!!」。気持ちを開放するロックチューン「HARUKAZE」の登場だ。愛沢絢夏の歌に合わせ飛び跳ねれば、サビでは愛沢絢夏と観客たちが思いきりタオルを振り回し、熱い風をフロア中に巻き起こしていた。彼女の歌に合わせ飛び跳ねずにいれない気持ち、すごくわかるよ。身体が、止まることを許さないんだもの。台の上に立ち、自分がこの熱狂を先導してゆくんだと言わんばかりにくしゃくしゃの笑顔で煽っていた愛沢絢夏の姿も輝いて見えていた。
「1年前の景色を思い出しながら歌っていたのね。誕生日の日から、みんなが一丸になって1年間掲げた目標に向かって駆け続けるのがわたしのこれまでだったけど。今年は、3月の復活も危ぶまれて…。予定していたワンマン公演も中止になって。今年は、わたしもそうだけど、みんな目標を見失いそうにあるときがあったと思う。でも、こうやってライブが出来たってたことは、愛沢何か持ってるよね。今日が1年前の明日だと思って、また一緒に進んでくれますか」
「後悔しない一日を一緒に過ごしていこうぜ!!」。その言葉を引き金に愛沢絢夏が歌ったのが「もしも今日世界が終わるとしても」。舞台の上を左右に動き、ファンたちと触れ合いを求める愛沢絢夏。たとえ今日が最後だとしても、けっして後悔のない日にしたい。そんな一日一日をこれからも積み重ねながら、わたしは、その瞬間に出会った人たちと笑いあって生きていたい。ライブを、支えてくれる仲間たちを愛しく思う愛沢絢夏らしい、気持ちをぶつけた歌だ。サビでは、フロア中の人たちが愛沢絢夏と一緒に想いの丈を心の叫び声に変えてゆく。「今日も笑って生きたかー!!」。その言葉を受け、たくさんの拳が彼女に向けて突き上がっていた。
最後も、この舞台上が、ライブが、歌い続けることが「僕のいる場所」なんだと示すように、愛沢絢夏は「やっぱりここが大好きなんだ」「僕はここにいる」と「僕のいる場所」を愛沢絢夏自身がその喜びを噛みしめながら、大好きな仲間たちを前に歌っていた。彼女は「僕のいる場所は

まだまだ小さな場所だけど」と歌う。でも、大きさなんて関係ない。ここにいる人たちは、ライブに触れている間中、この空間を巨大なドーム会場にだって負けることのない最高の空間に染めあげていたんだもの。「やっぱりライブハウスが大好きだー!!」と愛沢絢夏は大声で叫んでいた。規模なんか二の次でいい。一緒に笑顔になれるこの空間を失くしたくない。これからも愛沢絢夏と、彼女の歌に心奮わせた人たちと手を繋ぎながら、この場所を守り続けたい。

やまない手拍子を受け、予定外のアンコールとして愛沢絢夏がふたたびステージへ。「ここで気持ちを緩めることなく、仲間と繋がりあえるライブハウスを守っていきましょう」。その言葉が終わるのに合わせ、バースデーケーキが運ばれてきた。最後に愛沢絢夏は、「思いきり頭の螺子を外していこうぜ」と言葉を投げ掛け、ふたたび「Be Crazy」を演奏。フロア中から突き上がる多くの赤いサイリウムの光。フロア中の人たちが、その場で思いきり跳ねながら、最後の最後まで祭り上がっていた。

愛沢絢夏にとっても、次へ進むための一つの嬉しい転換の場になったこの日の主催ライブ。これから愛沢絢夏が描きだす物語へ少しでも興味を持ったなら、まずはその手を伸ばしてくれ。

PHOTO：大川茉莉 @MariOokawa
TEXT:長澤智典

爆弾幸気圧
https://baku-dan.com/
https://twitter.com/bakudan_kk

FROZEN CAKE BAR
http://frozencakebar.com/index.html
https://twitter.com/FrozenCakeBar

キャンディホリック
https://canholi.jimdofree.com/
https://twitter.com/_candy_holic_

MARKET SHOP STORE
http://market-shop-store.com/
https://twitter.com/marketshopstore

愛沢絢夏
https://a-ayaka.com/
https://twitter.com/aa_official1

Generated by ぷれりりプレスリリース
https://www.prerele.com